

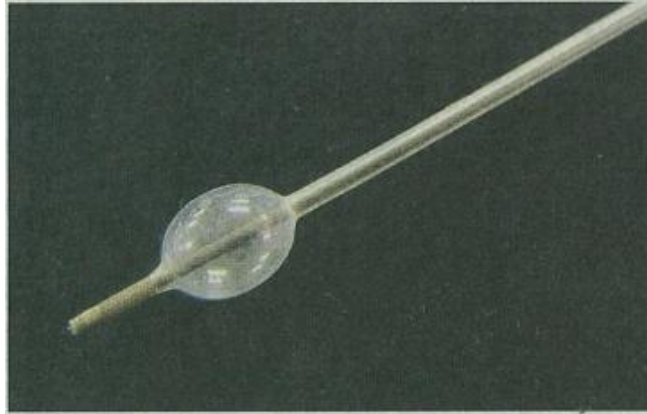
肝臓がんの治療に使うバルーンカテーテル「アテンダントデルタ」

テルモ・クリニカルサプライ

新型カテーテル開発

肝臓がん治療用 直径20%細く

テルモ完全子会社で、医療機器製造販売のテルモ・クリニカルサプライ(各務原市川島竹早町、深澤弘道社長)は、血管内で先端のバルーンを膨らませて血の流れを止めるカテーテル「アテンダントデルタ」を4日発売した。肝臓がんの治療に使用。直径が0.9mmと従来のバルーンカテーテルと比べて約20%細く、よりがん細胞に近い場所に抗がん剤を投入できる。同市の本社工場で製造する。2014年3月期の目標売上高は4億円。



肝臓がんの治療の一環として、カテーテルを肝臓の血管内に入れて抗がん剤を注入する方法がある。カテーテルの先端に付けたバルーンを膨らませて血の流れを変え、抗がん剤をがん細胞に集中させる。治療効果も上がるが、バルーンカテーテルは抗がん剤を送る管と、バルーンを膨らませる生理食塩水を送る管の二重構造。細くする

るには高い製造技術が求められてきた。同社は材料を見直し、強度と柔軟性のバランスの取れた素材を探し当てた。また親会社のテルモが持っている特殊なコーティング技術を採用。細く、血管内を進みやすいバルーンカテーテルの開発に成功した。

テルモ・クリニカルサプライは腹部向けカテーテルでは国内シェア3割を持つトップメ

ーカ。肝臓がんの治療に使うバルーンカテーテルでは90%以上のシェアを持つ。同社は「治療法の研究から携わってきた。高いレベルで医師のニーズに応えられる」としている。